

第9回 大阪・構造物非破壊診断交流会（ONDA） 議事録

日 時：平成20年6月25日（水） 15:00～17:20

場 所：(株) 国際建設技術研究所 本社 9階会議室

出席者：鎌田会長、葛目幹事、森幹事、永山幹事、内田会員、藤原会員、松沢会員、吉田（記録）
以上8名（順不同、敬称略）

配布資料：9-0 第9回 大阪・構造物非破壊診断交流会（ONDA） 議事次第

9-1 第8回 大阪・構造物非破壊診断交流会（ONDA） 議事録（案）

9-2-1,2 土木学会339委員会の活動紹介：藤原会員、内田会員

9-3-1~4 土木学会216委員会の活動紹介：鎌田会長

9-4-1,2 ONDA 共通計測に関する資料：内田会員

9-5 ONDA HP の充実に向けて：内田会員

9-6 第8回 コンクリート構造物の補修、補強、アップグレードシンポジウム：鎌田会長

9-7 4th International Conference on Construction Materials：鎌田会長

議 事：

1. 第9回議事次第

内田会員より、本日の交流会の進め方について説明があった。

2. 会長挨拶

開催の挨拶を鎌田会長が行った。

3. 第8回議事録（案）の確認

松沢会員より説明があり、内容確認が行われ承諾された。

4. 話題提供

- (1) 藤原会員より、土木学会339委員会の活動紹介があった。現在、WG1では、規格・規準の現状整理を行っている。現状では、非破壊試験に関する規格・規準は少ない。今後、規格・規準を作成して利用することは、発注者と受注者間の信頼関係を向上させる等のメリットがある。ただし、適用範囲および要領・手順を明確にすることが重要であるとの説明があった。なお、ネガティブな面（新技術の足かせになる、適用範囲が限定される等）もあり、これらの詳細な分析が必要との意見があった。
- (2) 鎌田会長より、土木学会216委員会の活動紹介があった。竣工時の品質検査制度の導入を目的とし、全国の構造物を調査するとの説明があった。試験項目は、①表面透気試験（Torrent法）、②テストハンマー法、③弾性波法、④採取コアによる各種試験などであり、①と②は最低限実施されるとのことであった。テストハンマー法に関し、使用する器具の統一性に注意すべきとの意見があった。
- (3) 鎌田会長より、非破壊検査協会弾性波法 NDIS 原案作成委員会の現状報告があり、8月初めから、パブリックコメントの募集へ向けての準備がはじまるとの説明があった。
- (4) 内田会員より、国際会議「Structural Faults and Repair-2008（エジンバラ、スコットランド）」の

参加報告があった。国際会議のテーマは、①検査、管理、分析および補強による橋の延命化、②コンクリートおよびコンポジットの検査および補修について、③石積構造物、建築物、土木構造物の検査および補修についての3つである。内田会員は、③のセッションにおいて、振動試験による集成材の接着不良に伴う欠陥の検出方法に関する発表を行ったとの説明があった。

5. ONDA共通計測に関するディスカッション

内田会員から、タイル接合界面の接着状態の非破壊評価手法に関する共通計測の実施案が提案された。コンクリートにタイルを貼り付ける際に使用する弾性接着剤は、湿度変化などにより、剥離や付着力の低下を生じる場合がある。弾性接着剤のニーズは今後拡大すると予想されるが、剥離の有無を非破壊により検査しようとする場合、現在広く用いられている打音検査では検出が難しい。そこで、ONDAで弾性波法（打音法、衝撃弾性波法、超音波法）による評価手法の研究を行う提案がなされた。分担等に関する詳細は、今後の検討事項となった。

6. ONDAホームページの充実に向けて（素案）

内田会員から、ONDAホームページの充実に向けての提案がなされた。ONDA講座の拡充、交流会・懇親会の写真の掲載、個人ページの拡充、論文等の掲載、カウンターの設置、ブログの開設を当面の課題とする説明があった。

7. その他

- (1) 鎌田会長より、「第8回 コンクリート構造物の補修、補強、アップグレードシンポジウム」に関する説明があった。工事報告（ポスターセッション）部門に、「打音法によるコンクリート内部欠陥のリアルタイム画像化システム（非破壊検査（株））」を投稿することとなった。また、次回ONDA会において、ポスター内容の確認を行うこととなった。
- (2) 藤原会員より、「切り出し床版を用いた調査」に関する報告（続報）があった。床版から採取したコアについて、EPMAにより塩素のマッピング分析を行う予定との説明があった（担当：日総試）。また、センサの種類を変え（変位センサ、加速度センサ、AEセンサ）、欠陥の評価を行った結果が示された。今後も検討を継続するとの説明があった。
- (3) 鎌田会長より、次回のONDA会では、現場見学を行いたいとの提案があった。見学場所については、決定後に連絡することとなった。なお、現場見学を実施できない場合は、日総試において次回ONDA会を開催することとなった。

8. 今後の予定

第10回交流会：平成20年8月26日（火）時間未定

場所：現場見学 または （財）日本建築総合試験所 本部（吹田市）

以上
（記録：吉田）